

「ファッション造形」におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の授業の在り方などの研究とその成果の普及

1 はじめに

被服製作において、授業中に生徒個々への指導時間は短く、偏りがある。限られた指導時間で苦手を克服し得意を伸ばすため、生徒個々への細かいアドバイスを的確なタイミングで行うために、ICT機器を活用し、生徒の技術向上につながる家庭科の授業を研究し、その成果の普及を目指す。

2 単元の概要

- (1) 科目名 ファッション造形
- (2) 対象生徒 生活文化科 40名
- (3) 使用教材 ファッション造形実習の手引き【応用編】(愛知県教育振興会)
- (4) 単元名 大裁ひとえ長着

3 単元の目標

- (1) 和服製作に関する理論を理解し、関連する技術を身に付ける。【知識及び技術】
- (2) 目的、着用者の好み、季節に応じた材料の選択について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 和服製作について自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む。【学びに向かう力、人間性等】

4 指導と評価の計画(30時間)

第1章	大裁ひとえ長着 女物	28時間
第1節	形と名称	(0.5時間)
第2節	でき上がり寸法	(1.5時間)
第3節	裁ち方・積り方	(4時間)
第4節	しるしつけ	(4時間)
第5節	縫い方	(16時間)
第6節	仕上げ	(2時間)
まとめ	着付け	2時間
事例検討		(2時間)

指導計画

※○印は評定のために用いるもの

時間	学習活動	評価		評価方法
		観点	記録	
第1章				
【ねらい】 浴衣の構成と名称が理解でき、反物の扱いが適切にできる。 和裁の手縫いの方法を理解し、適切に縫うことができる。 効率的な縫製について考え、判断することができる。 製作技術に関心をもち、意欲的に製作しようとしている。				
1 ～ 2 8	・浴衣の構成と名称	知	○	定期考査
	・反物の扱い	思		
	・和裁の手縫いの方法	知 主	○	和裁の基礎縫い
	・浴衣の製作	主	○	浴衣の進度
		主	○	浴衣の提出
		思 主	○	毎授業後に記入する振り返りシート
		思 主	○	浴衣の作品記録
	主	○	夏季休業中の課題 (和裁の基礎縫い)	
	主	○	授業の準備 (忘れ物・片付け等)	
	知 思	○	定期考査	

5 成果と課題

〈成果〉

生徒が提出した動画より、和裁の基礎縫いを正しく習得しているかを確認することができた。特に、手元を拡大して見ることで、針目の大きさや運針のスピード、使用する針の種類や持ち方、布の持ち方等の細部まで確認することができた。同時に、生徒の縫いくせを知ることができ、的確なタイミングで個別の指導を行うことができた。実習内容の動画撮影は、生徒の技術向上に役立ち、得られる情報が多いので今後も継続していきたい。

<浴衣のえり下の三つ折りくけの生徒の動画>



令和6年度の研究では教員からの実習内容の動画の配信を行うことで、生徒が確認しながら実習を進めることをしてきた。そのことにおいても、一部の生徒ではあるが、自主的に示範中の動画を撮影することも日常化してきた。そして生徒が撮影した動画を生徒間でやり取りし、実習内容の確認をし

ている様子もうかがえる。他の科目でも示範の動画配信を行い、技術検定試験の備えとしてICT機器を活用した。今後も生徒の技術向上につなげていけるよう、実技テスト等に動画の配信を取り入れるなど、ICT機器を上手く活用していきたい。

〈課題〉

授業中に撮影した生徒の動画内容から、授業時に生徒同士で確認し合う様子や、授業に関係のない内容を話す様子が撮影されていた。このことより、教室のレイアウトを変更するなど、実習しやすい環境づくりを検討していく必要がある。また、生徒へ今後の課題をアウトプットする時は、ICTと紙面を組み合わせたハイブリッド学習のメリットを生かしていきたい。生徒においては、ICTと紙面の教材を効果的に使い、主体的に学習ができる学び方を実践し、技術の向上につなげていきたい。今後も主体的で対話的で深い学びを実現できる授業の在り方について考えていきたい。